

目次

- I 図書館の役割
- 3 シリーズ・電子ジャーナル(1)
- 5 Ask Us としょかんミニガイド
- 7 平成10年度附属図書館統計
- 7 本学教官寄贈著書紹介
- 8 私の一冊
- 10 とびっくす
- 10 掲示板

図書館の役割

板橋 秀一

私が現在の研究分野(音声情報処理)に関係するきっかけを与えてくれたのは、大学の図書館である。大学の3年生のときに、学科の図書室で何気なく「音声合成」に関する論文を見て非常に興味をひかれた。それは大学の附置研究所の紀要のようなものであったが、それが目に触れたことが、音声の研究に入る動機となった。種々の本や雑誌を教官や学生が手軽に手に取って見ることができるといふことは、とても大事なことと思う。



台湾大学附属図書館前に立つ板橋館長

図書館の機能を要約すれば、情報の保存と利用ということになる。情報の保存のためには多数の図書を収蔵する必要があるが、利用の際の便宜を考えて、分類・整理をして適切な管理をしなければならない。これにはすべての図書を1か所(または数か所程度)に集めて保管する「集中配置」と多数の個所に分散して保管する「分散配置」の

方式がある。筑波大学では(集中管理と呼んでいる)集中配置方式を取っているが、他の多くの大学では各学科毎に分散配置している。専門の研究者が手軽に利用できるという点では分散配置が良いが、他分野の資料を探すときは不便である。また分散配置方式では、どうしても複本(同じ本)数が多くなる。この矛盾を解決する有効な手段が電子化と言えよう。図書館の「電子化」は、検索用目録の電子化から始まって、図書の内容の電子化まであり、その範囲は広く捉えられている。内容の電子化まで進めば、図書館に出かけなくてもネットワークに接続された手近な端末から図書を検索利用することが可能になる。

図書館の宿命は、収蔵すべき本は増加する一方で、減少することがないということである。これを解消するには二つの方法が考えられる。

- (1) 収蔵容積を増す。
- (2) 収蔵対象を減らす。

(1) はもちろん必要であるが、無制限に大きくするわけにはいかない。どこかで限界が来ると考えなければならない。(2) には次のように幾つかの方法が考えられる。

- (2.1) 必要度の低い本を棄てる
- (2.2) 複数ある本を1冊だけにする
- (2.3) 共同保管を図る
- (2.4) 保管形態を変える

(2.1)は完全には実施できない。まれにしか見ない本ほど図書館のようなところで保存すべきものと考えられるからである。(2.2)は実施可能であり、集中配置もその一つである。しかし、利用上の便宜を考えると、全てにわたって実施する訳にはいかない。(2.2)をさらに発展させたものが(2.3)である。同じ本や雑誌を全国の図書館が全部保管しておく必要はないであろうということから、共同利用を想定した保存図書館の構想がある。この考えを発展させれば、図書館によってそれぞれ専門を分担するということもできよう。ただしその実現のためには高速で正確な検索手段と、書籍の高速搬送手段が必要になる。これを実現する有力な方法の一つが電子化であろう。(2.4)はマイクロフィルムやマイクロフィッシュとしてすでに実現されているが、電子化はその発展形態と考えることができる。

「電子化」のメリットとしては、以下のようなことが上げられる。

- (1) 保管容積の減少
 - (2) 遠隔から多数の人の利用が可能になる
 - (3) 索引の作成・検索が容易になる
 - (4) 文字・画像・音声等の統合処理が可能
- 電子化する場合、文字化できないものは画像として保存することになるが、その場合、画像取り込みの精細度(解像度)が問題となる。もちろん、解像度は高い程良いのであるが、そうなると記憶容量や検索時間が大きくなるので、どこかで妥協する必要がある。全部一律ではなく、対象、目的、必要性等によって何段階かに区別する必要があるだろう。

研究分野を大まかに理系と文系に分けて考えると、理系においては図書によって与えられる情報つまり図書の内容が必要とされるのに対して、文系では内容によって与えられる情報はもちろんのこと、図書それ自身も研究対象になり得る性格を持っている。このため、理系では電子化しても特に大きな問題は生じないが、文系の場合は「現物」を手にすることができないということが大きな問題となる。文系の研究者にとって図書は実験材料であり、図書館は実験室ということもできよう。

このように文系の研究者にとって電子化は必ずしも十分に満足できる環境ではないかも知れないが、それでも私は電子化によるメリットは大きいと思う。それは、いわゆる「貴重本」の利用の道が大きく開かれる可能性があるからである。例えば日本に1冊しかない本を図書館外に持ち出して利用することは殆ど不可能に近いと思われるが、これを高精細画像として電子化すれば、インターネットに接続されたこの図書館あるいは端末からでも利用することが可能になる。もちろん現物を実際に手に取って、例えば、和装本の場合、二つに折りたたまれた頁の裏面を見たりすることはできないかも知れないが、「内容」を見ることは十分に可能である。これだけでも電子化のメリットは十分にありと考えられる。

図書館の電子化にかかわるもう一つの大きな問題は複写(コピー)である。大学図書館では、著作権法により著作権のある所蔵資料を一定の範囲で複製することが認められている。電子化により、コピーが無制限に行われる可能性が生じる。電子化の場合、本物とコピーの間に品質上の違いは全くないという点が、従来のコピーの状況と異なる点である。このような背景から、デジタル時代に対応した著作権の考え方が求められているところである。利用者は著作権については十分配慮する必要がある。

図書館の電子化が進んだとしても、冊子体の本の必要性が全く無くなることはないであろう。冊子体の本をばらばらとめくる感じで頁を進めることができる「電子図書」ができたとき、電子化の完成と言えるかもしれない。

筑波大学図書館は、蔵書数約204万冊、雑誌17,632種類、入館者数年間約88万人と、全国有数の規模を誇っている(平成10年度統計)。本学図書館の特徴としては、集中管理、全面開架、休日開館、ボランティアの導入等が上げられる。また、本学では大学図書館の中でも先導的に電子化を進めている。このような本学の図書館を、研究・教育に有効に活用していただきたい。

(いたばし・しゅういち 附属図書館長)

シリーズ・電子ジャーナル(1)

電子ジャーナルを使ってみよう

最近、電子ジャーナルという言葉をよく耳にします。電子ジャーナルとはいったい何でしょうか？どこで、どうすれば利用できるのでしょうか？どういう長所あるいは欠点があるのでしょうか？

こうした疑問にお答えするため、「つくばね」では電子ジャーナルをシリーズで取り上げ、最新の情報をまじえながら、電子ジャーナルに関するさまざまな話題をご紹介します。第1回目の今回は、電子ジャーナルとはどのようなものか概略をお伝えするとともに、実際に電子ジャーナルを利用するにはどうしたらいいか簡単に説明したいと思います。

電子ジャーナルとは？

電子ジャーナルとは、文字通り学術雑誌を電子化し、コンピュータのディスプレイ上で見られるようにしたものです。(図1) 図書館に出向かなくても、研究室などのパソコンからインターネットを通して出版社のホームページに接続し、居ながらにして雑誌の記事を読むことができます。ネットワークを介してオンラインで利用するところから、オンライン・ジャーナルと呼ばれることもあります。以前は、ネットワークにつながっていないパソコンで利用するためCD-ROMで提供されたり、大学図書館がサーバを用意して、出版社から送付されたデータを蓄積し、学内に提供するという方式のものもありましたが、最近ではあまり見かけません。

電子ジャーナルには無料のものと有料のものがあります。従来のような紙の冊子体でも出版・販売されている場合には、冊子体の雑誌を購入することによって電子ジャーナルに無料でアクセスできるものがあります。ですから図書館で購入している雑誌を学内の端末から見るといったことが可能になっています。実は、現在のところ、筑波大学で利用していただけるのはほとんどこういう種類のものです。また、冊子体購読料に割り

増し料金をプラスすることによって、電子ジャーナルが見られる場合もあります。電子ジャーナルだけの契約を積極的に推進している出版社は、まだあまりありません。この場合、バックナンバーへのアクセスが確実にできるかどうか不安という問題があります。

電子ジャーナルの契約に関しては、情勢がきわめて流動的で、いろいろな問題をはらんでいますので、また改めてお伝えする予定です。



図1 電子ジャーナルの例

電子ジャーナル出現の背景

これまで雑誌、特に海外の学術雑誌は、発行されてから図書館で見られるようになるまでずいぶん時間がかかったり、欠号が生じたりといった問題を抱えていました。これは紙という媒体に印刷して飛行機や船を使って輸送する以上、ある程度は避けられないことです。また、そうした印刷や輸送のコストは年々上昇し、それに伴って、学術雑誌の値段も、毎年、上昇の一途をたどっています。ところが、大学の資料購入予算は頭打ちであり、最近の円安傾向にも追い討ちをかけられて、どの大学でも、これまで購入していた雑誌を大量に中止せざるを得なくなっています。

一方において、インターネットの爆発的な普及に象徴されるように、コンピュータ・ネットワー

クを通じた電子的な情報のやり取りは、学術情報の流通のあり方を根本から変えようとしています。学術情報の生産者であると同時に消費者でもある研究者たちは、高価になってしまった上に情報の遅い紙の雑誌から、迅速な電子メールやWWWによる情報交換へとシフトしようとしているのです。学術雑誌の出版社にとってこれは死活問題であり、多くの出版社が競って自社の雑誌を電子化して提供するようになりました。

電子ジャーナルは先に述べたような未着・欠号の問題を解決しますし、電子的な形態のみで発行すれば、印刷や輸送にかかるコストや時間を大幅に削減できるはずですが、しかしながら、実際には、一部の例外を除いて、どの出版社も冊子体の発行をやめていませんし、電子ジャーナルを冊子体より安い値段で販売することはありません。雑誌の価格問題の解決にはなっていないのが現状です。

電子ジャーナルを利用するには？

前置きが長くなりましたが、百聞は一見にしかず、とにかく実際に電子ジャーナルにアクセスしてみましょう。電子ジャーナルの多くはアクセス制限があり、学内ネットワークに接続された端末からしか利用できませんのでご注意ください。

筑波大学電子図書館のWebサイトには、「オンライン・ジャーナル」のページ (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/online-j/>) が用意してあり、ここから各出版社の電子ジャーナルへのアクセスが可能となっています。(図2) お好みのタイトルを選んでマウスをクリックしていただくと、出版社のWebサイトへジャンプします。後はサイトによって手順が違いますが、おおむね、雑誌各号の目次→該当論文の全文表示といった具合にリンクをたどって行って本文を表示させることとなります。論文のタイトルや著者、抄録中に含まれる語などで検索できるようになっているものもあります。



図2 オンライン・ジャーナルのページ

本文を表示させる際、PDF という文字を目にすることがあります。これは Adobe (アドビ) という会社が作り上げたファイル形式で、印刷物に近い画像が得られ、拡大・縮小が可能といった特長を備えているため、電子ジャーナルで広く使われているものです。この形式のファイルを表示させるためには Acrobat Reader というソフトが必要です。これは Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) から無料でダウンロードできます。図書館の端末にはすでに組み込んでありますので、そのまま表示できます。図1の例もPDF形式の論文を表示したところです。

表示させた論文はプリンタで印刷することもできますし、フロッピーディスクなどにダウンロードすることもできます。ただし、便利だからといって、片っ端から大量にダウンロードしたりすると出版社から警告を受けますので、節度をもって、本当に必要な論文のみでお願いします。

*お問い合わせ先

初期設定に関する質問：電子情報係 (内線2470)
検索方法に関する質問：各館レファレンスデスク

ASK US としょかんミニガイド

国立国会図書館雑誌記事索引データベース

今回は、日本語の雑誌論文を探す上で大変便利な、国立国会図書館雑誌記事索引データベースを紹介します。

このたびサービス形態が変わりましたので、アクセス方法などの変更点についても説明します。

Q：「雑誌記事索引」とは？

A：雑誌論文を探すための情報源として、雑誌記事索引という索引誌があります。

「国立国会図書館雑誌記事索引」は、国立国会図書館に納本された国内和雑誌、紀要類の掲載論文について、雑誌名、論題、著者名などから検索できるように編集された索引です。冊子で刊行されたものは、中央図書館では1948年分から所蔵しています。

日本語論文を扱った雑誌記事索引の中では収録内容もタイトル数も最大級のもので、「雑誌記事索引」といえば国立国会図書館のこの索引を指すことが多くあります。(ここでも「雑誌記事索引」と呼んでいます。)

さらに1975年以降の論文のデータはCD-ROM化されており、筑波大学図書館では現在のところ1985年分から提供しています。CD-ROMのデータベースを検索することで、最近の論文を網羅的に、しかも短時間のうちに探し出すことが可能です。学内のみでのご利用となりますが、図書館以外でも、学内の研究室等からもアクセスできます。

今回はこのCD-ROM版「雑誌記事索引」データベースの検索方法を簡単に説明します。

Q：どのコンピューターを使って検索できるのですか？

A：各図書館内では、検索できる端末が以前より大幅に増えました。情報検索コーナーにあるWindows95 端末でお使いいただけます。

また研究室等から学内 LAN 経由でもご利用に

なれますが、利用できる端末に制限があります。また各種設定が必要になります。詳細については図書館のホームページに説明を用意しましたが、ご不明の点がありましたら担当までお問い合わせ下さい。(*)

Q：検索手順を教えてください。

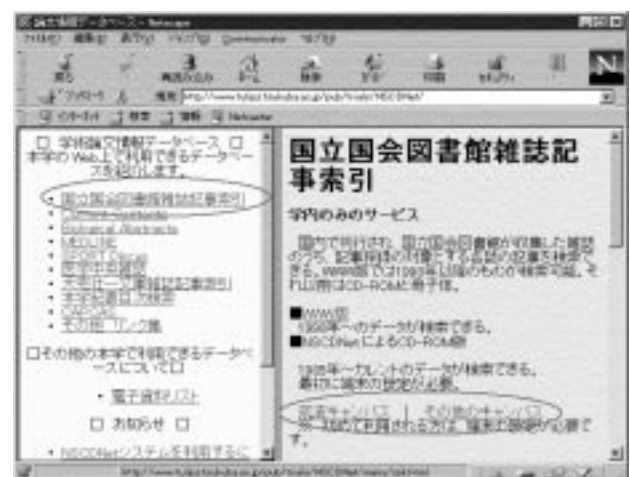
A：WWW ブラウザ上で図書館のホームページから CD-ROM サーバーに接続します。ホームページの構成は時折変更していますのでご注意ください。変更については図書館のホームページの「新しい情報」をご覧ください。

1. 検索開始

図書館のホームページ (URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>) 上にある「学術論文情報データベース」の部分をクリックします。

「国立国会図書館雑誌記事索引」のリンクをたどると、WWW 版か CD-ROM 版を選択する画面になります。今回は CD-ROM 版を説明しますので、「NSCDNet による CD-ROM 版」のそれぞれのキャンパスの部分をクリックして、サーバーに接続します。(研究室等からアクセスする場合は、接続の前に端末の設定が必要です。説明に従って設定して下さい。)

NSCDNet Intranet と書かれた画面に移りまし



た。(研究室等からアクセスする場合には、最初ここで各種の設定が必要です。説明のページに従って設定して下さい。)設定が済んでいる場合は「データベース」をクリックしてデータベースメニューのページに移り①、ZSK(「雑誌記事索引」)を選択します。検索ソフトが起動し、CD-ROMを選択する画面が表示されます②。



ここまでが主な変更点で、検索方法自体は従来図書館内のみで提供されていたCD-ROM版「雑誌記事索引」データベースの検索方法と同じです。

2. CD-ROMの決定

CD-ROMは年代によって分かれています。検索したい年代のCD-ROMをクリックして、「決定」をクリックして下さい。CD-ROMは一度に1つしか選択できませんが、選択後検索途中でもCD-ROMを交換することができます。

3. 検索条件の入力

検索画面に条件を入力します③。単語は表記形のほかヨミで入力しても検索可能です。同一検索項目内で複数の検索語を*(AND), +(OR), #(NOT)の記号で組み合わせることができます。

4. 検索結果の表示

「検索実行」ボタンをクリックすると、検索結果の一覧が表示されます④。結果の詳細を表示したい場合は、そのデータをダブルクリックするか、クリックした後「詳細表示」ボタンをクリックします⑤。



Q:「雑誌記事索引」で見つけた論文は、全部筑波大学の図書館にありますか？

A:「雑誌記事索引」は国立国会図書館の所蔵雑誌をもとに作られていますので、ヒットした論文の掲載雑誌を、全て筑波大学図書館でご覧になれるとは限りません。ご覧になりたい論文の掲載雑誌が当館にあるかどうかは、検索結果中の雑誌名やISSN(International Standard Serial Number)を用いて、筑波大学図書館の所蔵目録(OPAC)を別途検索していただくことになります。

なお、「雑誌記事索引」CD-ROMの詳しい検索方法については、各画面でのヘルプが充実していますので、そちらもご覧下さい。

*お問い合わせ先

初期設定について：電子情報係(内線2470)

検索方法について：各館レファレンスデスク



平成10年度附属図書館統計

詳細な統計は www ページでも提供しておりますのでご覧ください。

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/outline/statistics-1998.pdf>

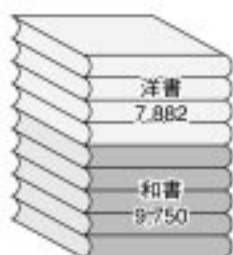
蔵書数 2,043,022冊



年間受入冊数 48,396冊



所蔵雑誌タイトル数 17,632種



継続雑誌タイトル数 11,521種

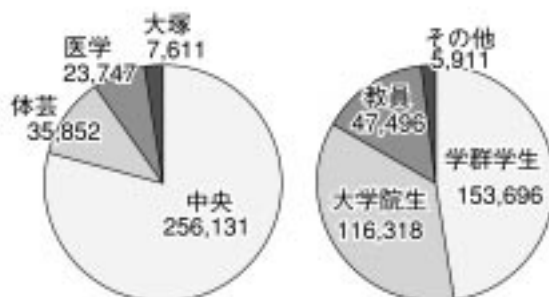


入館者数 879,401人



学外者	閲覧	27,277
	見学	4,342

貸出冊数 323,341冊



利用対象者数 22,984人

利用者タイプ	教員	職員	学生	大学院生
人数	2,968	1,831	11,110	7,075



本学教官寄贈著書紹介

平成11年3月～5月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介いたします。(敬称略, 寄贈者五十音

順、所属は平成10年度のものであります。[]内は配架番号です。)

- 石塚茂清 (現代語・現代文化学系) 『ニーベルンゲンの歌』: 言葉と舞台. 朝日出版社, 1998 [941-I84]
- 池上良正 (哲学・思想学系) 民間巫者信仰の研究: 宗教学の視点から. 未来社, 1999 [163. 9-I33]
- 磯田正美 (教育学系) 生徒の考えを活かす問題解決授業の創造: 意味と手続きによる問いの発生と納得への解明. 明治図書出版, 1999 (シリーズ・魅力ある数学授業を創る 7) [375. 41-I85]
- 伊藤益 (哲学・思想学系) 日本人の愛: 悲憫の思想. 北樹出版, 1996 [158-I89]
- 日本人の知: 日本的知の特性. 北樹出版, 1995 [121. 3-I89]
- 日本人の死: 日本的死生感への視角. 北樹出版, 1999 [114. 2-I89]
- 大田友一 (電子・情報工学系) Mixed reality: merging real and virtual worlds. Ohmusha, 1999 [548-029]
- 大塚藤男 (臨床医学系) Phacomatosis in Japan: epidemiology, clinical picture, and molecular biology. Japan Scientific Societies Press, 1999 (Gann monograph on cancer

- research no.46) [494.5-J24]
- 河上正秀 (哲学・思想学系) ドイツにおけるキルケゴール思想の受容: 20世紀初頭の批判哲学と実存哲学. 創文社, 1999 [139-Ki14]
- 榎原隆 (教育学系) 言語生活者を育てる: 言語生活論&ホール・ランゲージの地平. 東洋館出版社, 1996 (シリーズ・国語教育新時代) [375. 8-Ku95]
- 言語活動主義・言語生活主義の探究: 西尾実国語教育論の展開と発展. 東洋館出版社, 1998 [375. 8-Ku95]
- 斎藤功・松本栄次 (地球科学系) ノルデステ: ブラジル北東部の風土と土地利用 = Nordeste. 大明堂, 1999 [296. 2-Sa25]
- 正野俊夫 (農林学系) 応用昆虫学入門. 川島書店, 1995 [486. 1-Ma81]
- 中谷陽二 (社会医学系) 精神鑑定の事件史: 犯罪は何を語るか. 中央公論社, 1997 (中公新書 1389) [498.99-N43]
- 宮永豊 (体育科学系) アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学. 文光堂, 1998 [780.19-Mi79]
- 山川隆一 (社会科学系) 国際労働関係の法理. 信山社, 1999 [366.12-Y27]

私の一冊

石塚茂清

「ニーベルンゲンの歌...言葉と舞台...」

石塚茂清著 (朝日出版社 1998)

[中央図: 948-I84]



『ニーベルンゲンの歌』は、ドイツの『イーリアス』と言われ、ゲーテの『ファウスト』と並ぶドイツ文学の最高傑作と呼ばれている。

本書では、叙事詩に用いられている言語の修辭的語法の解明を試み、武器や古楽器について考察し、更に叙事詩ゆかりの地の写真を添えている。

叙事詩の作者は未詳、叙事詩成立は西暦1200年頃である。この叙事詩は、不死身の英雄ジークフリートと、美貌の女王プリュンヒルトの伝説を素材とし、5世紀前後のゲルマン民族移動期の史実を取り込んでいる。爽やかな魂、良心の厳しさ、

苦悩の切実さなどが見事に描かれている。ここに登場する人物たちの言動は、現代の我々に生き生きと迫り、訴えかける何かをもっている。

13世紀初頭に中高ドイツ語で書かれた原典は、当時の読者に古雅な響きを感じさせるように意図して書かれている。そのような語彙語法が、原典読解を困難にしている。そこで、本書では読み解く上で肝要な語彙語法に関する事項、即ち「直喩、隠喩、登場人物の換称、人称交替、代名詞先置」を扱い、また文化史的な側面として「権力支配の象徴としての投槍、騎士でもある楽人、古楽器、ジークフリートの飲んだ酒」などを取り上げている。地理的には、西はアイスランドから東はハンガリーに至る広大な地域を舞台にしている、古代に栄えた町の名前も出てくる。本書では、そのような地名関連の詩節にも力点を置いている。私はこれまで、叙事詩に描かれている地に何度か足を運び、その風土に身を置き、叙事詩の舞台の雰囲気を実感し、古代の人々の心に想いを馳せてきたが、その一端を第11章、第12章にまとめている。

翻訳ないしは原典でこの叙事詩を読む方々に、本書が読解の一助となるよう願っている。
(いしづか・しげきよ 現代語・現代文化学系 教授)

中谷陽二

「精神鑑定の事件史 犯罪は何を語るか」

(中公新書 1389)

中谷陽二著 (中央公論社)

[中央図, 医学図 498.99-N43]



異常な犯罪が発生するたびに精神鑑定が話題になる。本書は犯罪史上で知られたいくつかの事件を取り上げて精神鑑定の舞台裏をのぞいたもので

ある。登場するのは、レーガン大統領の暗殺未遂犯ヒンクリー青年、ビリー・ミリガンを筆頭とする「多重人格」の犯罪者たち、ロシア皇太子に向かって白刃を振った大津事件の犯人津田三蔵、今世紀初めに南ドイツで起きた大量殺人事件の犯人ワーグナー、その日本版とも言える、小説や映画のモデルになった津山事件の犯人都井睦雄、晩年に妻を絞殺したカリスマ的哲学者のレイ・アルチュセール、終戦直後の俳優仁左衛門殺しの犯人などである。

社会に衝撃を与えたこれらの事件の裁判では、精神鑑定のあり方を通じて精神医学の真実性が俎上に乗せられる結果になった。ヒンクリーに対する無罪評決は精神異常を理由とする免責制度への集中砲火を呼び、連続殺人犯ピアンキの裁判では多重人格の有無をめぐる鑑定人らが二派に別れて争った。アルチュセールに対する精神鑑定と予審免訴の手続きは、後にアルチュセールみずからによって辛辣に批判された。

精神鑑定にはさまざまな技術的困難があるが、それらがクリアされたとしても、なお陥穽が潜んでいる。詰まるところ、鑑定が診断する人とされる人の出会いであり、両者のこころのもつれ合いが演じられるからである。しかもそれは裁判というすぐれて演劇的な空間においてである。映画「タクシー・ドライバー」の熱狂的ファンで、ジョディ・フォスターのストーカーでもあったヒンクリーは、狂気とも正常ともつかないメッセージを放って鑑定人を混乱に陥れ、ミリガンは「虐待のトラウマに苦しむ多重人格患者」になりきって精神科医と心理学者の関心を見事にとらえた。かたやワーグナーを「典型的パラノイアの症例」として報告することで学問的野心を満たしたガウプ教授と、かたや文学的成功に執着し続けたワーグナーの間には、感情の深部で引き合うものがあった。

精神鑑定はなぜ誤りやすいか。それは人間のこころが厄介なものだからである。(本書は平成十年度講談社出版文化賞〔科学出版賞〕を受賞した。)

(なかたに・ようじ 社会医学系 教授)



〔地区〕

平成11年度関東地区国立大学図書館協議会総会

4月28日（水）埼玉大学の当番で開催されました。

〔協議事項〕○図書館職員のための国内研究員制度の創設について○電子ジャーナルへの対応について○学生ボランティアの導入について○大学図書館における学習支援機能の強化・充実方策について○研究用資料の集中化又は一元管理について、ほか

〔学内〕

第218回附属図書館運営委員会（4月開催）

〔審議事項〕○平成11年度専門委員会委員の選出及び委員長の指名について、ほか

〔報告事項〕○平成11年度の教育図書委員会、研究図書委員会及び体育・芸術図書館委員会の芸術関係組織選出の委員について○平成10年度附属図書館運営委員会活動状況について○平成11年度附属図書館ボランティア委員会委員について○電子ジャーナルのトライアルについて、ほか



中央図書館の改修工事について

このたび下記の館内改修工事を行い、利用環境の改善をはかりました。

本館3階閲覧室の照明増設工事で明るさアップ

資料増加に伴う書架増設等により、書架と照明との位置関係がずれていましたが、書架と書架の間に照明設備を配置し増設したことにより、照明不足を解消しました。明るさはアップしましたが、省エネを考慮し、ブロックごとに人を感知すると一定時間点灯するようになっています。



本館2階エレベーター横のトイレが快適に

利用者が多いことから、老朽化が激しく故障も頻繁に起こっていましたが、全面改装し、明るく清潔になりました。照明はここも省エネタイプで入室すると10分間自動点灯します。

本館入口扉を自動化

自動扉にすることにより、利用者、特に身体障害者の入館が容易になりました。

入館管理システム・ブックディテクションシステムを最新式設備に更新

老朽化していた機器を更新しました。

なお、ブックディテクションシステムは医学図書館でも更新しました。

照明設備、トイレについては順次他階も改善するよう努めます。

海外文献複写料金の支払いについて

海外に依頼した文献複写の料金は、これまでは一部私費負担でしたが、平成11年4月から予算登録コードによる校費振替ができるようになりました。

* お問い合わせ先：相互利用係（内線2374）



本年度の館報「つくばね」編集委員は、次の8名です。

主 査：情報管理課長 内藤英雄

副 主 査：情報システム課課長補佐 栗山正光

情報管理課：茅根邦子、大澤類里佐

情報サービス課：篠塚富士男、阿部高、渡邊雅子

情報システム課：福井 恵

筑波大学附属図書館報 第25巻 第1号（通巻95号）1999年6月30日 筑波大学図書館部発行

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 電話 0298-53-2347

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>